

学校だより

# 東 雲

(しのめ)



八戸市立東中学校

Tel 31-3170 31-3180

※ 東中学校の教育情報は、ホームページやブログでも公開しておりますので、是非ご覧ください。

Fax 32-1130

[http://hachinohe.ed.jp/higasi\\_j/](http://hachinohe.ed.jp/higasi_j/)

◇◇ 共育94 ◇◇

(「共育」:皆さんと「共に育む」の意味です。)

## 学校評価委員からの意見・感想

本校では、4名の方に「学校評価委員」をお願いしております。過日、第2回評価委員会議を開催し、平成23年度の内部評価(保護者評価、教職員評価、生徒評価)について、委員の皆さんから率直なご意見・ご感想をいただきました。紹介いたします。

- ①生徒の「生活の評価・アンケート」では、全体的に良い結果で安心しました。低く評価した生徒には、配慮をお願いします。
- ②現在も、あいさつをきちんとしてくれて、とても気持ちが良いです。
- ③グッジョブでの生徒達の元気な行動は、受け入れ側の職場にも良い刺激になっています。
- ④学校行事やPTAの委員会活動等、保護者が参加できたり学校に行ける機会が多く、生徒の学校生活を知ることができて良いと思います。
- ⑤朝、夕の生徒達の行動から、東中については、明るく優しいイメージを持ちます。
- ⑥今の生徒達にとっては、先生方が説明するだけでなく、実際にやって見せることが必要だと思しますので、よろしく願いいたします。
- ⑦生徒へのアンケートのとり方について、昨年述べた意見(項目によっては、「はい」「いいえ」だけでなく、どういう点がそうなのか等、コメントを書くスペースを設けた方がいい)がいかにされていないのが残念でした。
- ⑧文化祭を拝見させていただきましたが、どの作品もととてもよく考え、表現されていて、生徒や先生方の努力の成果が見られ、大いに評価できると思いました。
- ⑨体育祭では、先生方・生徒とも行動がてきぱきとしており、一生懸命で、さらにめいっぱい楽しんでいる様子が見てとれ、学校目標の「社会力の育成をはかる」の評価は高いと思います。
- ⑩「地球のステージ」を見たかったです。そう思っている卒業生の保護者の方もいらっしゃると思います。ブログ以外で案内する方法を考えていただけませんか。
- ⑪保護者の「情報発信」、親子それぞれの「学校行事」に対する評価の高さから、先生方の努力が感じられます。また、「挨拶」「服装」についても同様に良く思います。
- ⑫読書に関して、生徒と保護者の差がありますが、やはり家庭での宿題や自主勉が多く、保護者からすれば、読書の時間がないということなのではないでしょうか。
- ⑬一番気になったところは、生徒の「理解の不足している教科がある」が約80%なのに対し、「基礎・応用に分けたらいい」が64%で、少しアンバランスに感じました。分けた方が理解できると思いますので、もしかすると『わからなくても聞かない。どうでもいい』とあきらめているのでなければいいのですが…。
- ⑭久しぶりに文化祭を見に行きました。校庭が駐車場になってとても便利でしたが、初めて訪れる方にはわかりにくい気がします。小さくても、駐車場の案内があるといいと思いました。
- ⑮東中の保護者のOBが地域にたくさんいますが、現在の東中の様子を気軽に知る手段があまりないのが残念です。ホームページ以外で、世代をこえて東中の様子を知ることができる手段があるといいと思います。
- ⑯今後も、東中が地域の小学生の模範であり、文武両道の精神のもと、市内の中学校のリーダー的存在として、地元の人々に愛される学校であってほしいと思います。

## 少し元氣の出る話 その2 「I君のウニ」

今年の1月8日、八戸市の成人式がありました。新成人の中には、私が今から5年前、東中で学年主任を務めていた時の生徒たち(平成18年度卒業生)も含まれていました。成人式後、グランドホテルで同窓会を行うというので、誘われて行ってみると、137名の卒業生が参加していました。近況をたずねてみると、各自のステージで頑張っていることがわかり、ホッとすると同時にうれしさがこみあげてきました。

彼らが中学生の頃は、私の指導のいたらなさもありましたが、やんちゃな生徒が多く、今の東中からは想像もできないほど大変な時代でした。学年主任としての私が、本気で修学旅行をやめようと考えたくらいです。

それが、5年で驚くほど成長したことに感激するとともに、私が彼らのゴールを、中学校の卒業としか考えていなかったことに深く反省させられました。そして、やはり私が学年主任として担当し、8年前に東中を卒業したI君という生徒を思い出しました。

一昨年(平成26年)の6月のことです。職員室にいた私を、生徒が「お客さんが来た」と言って呼びにきました。玄関に行くと、そこには何となく見覚えのある一人の青年が立っていたのです。その青年は、「工藤先生、戻ってきた?びっくりした!」と言って、何かが入ったバックを差し出すのです。その瞬間、『I君だ!』とすぐ思い出しました。

I君は、中学生の頃は学校を休みがちで、高校も一年ちょっとで退学したようです。そのまま通学していれば高校2年生であるはずの6月、突然I君が東中に、ウニを持ってきたのです。「頼まれて浜の方に手伝いに行ってきたが、ウニをもらった。学校の先生にも食べさせたくて持ってきた。」というのです。そして、翌年も同じ頃、ウニを持って学校に来ました。それが、5年を経過しても続いていることにびっくりしたのです。年が経過するにつれて、I君を知っている教職員は少しずつ減り、4~5年もすると誰もいなくなったようです。それでも、I君は毎年ウニを届けてくれていたのです。I君のことをよく知らなくても、先生方は『ウニのIさん』と呼んでいたというのです。自分が在籍していた頃の先生はいなくなっても、お世話になった東中に、毎年ウニを届けるという行為は、誰もができることではありません。中学生の頃は、学校を休みがちだということで、心配したお母さんから何度も相談を受けました。高校を中退したことは、東中に在学していたI君の妹から聞きましたし、「いつも兄が面倒をかけて…」と言われたこともありました。しかし、そんなI君も着実に成長していたわけです。I君のゴールが、高校の卒業だけであるならば、彼はゴールを迎えられなかったことになります。しかし、多様な現在の社会では、卒業はあくまでも一つの区切りや節目であってゴールではありません。さらに、これまでは、ゴールするにも、誰もが前を向いて全力疾走でなければ認められないような雰囲気もありました。また、ゴールも一律に同じものしか認められていなかったようにも思えます。ただ、現在は、個人によってそれぞれゴールは違いますし、ゴールの仕方も、「後ろを向きながら」とか「誰かに支えられて」とか様々あると考えられているのです。

3年生は、受験期の真っ只中にいます。そして、東中を卒業していくことになります。間もなく、2年生は「立志式」、1年生は「希望式」を迎えます。いずれも、人生の節目となったり、中学校生活の区切りになっていくことでしょう。しかし、最終のゴールではないのです。うまくいかないことがあっても、それを糧とすれば、次の節目では、納得のいく結果が得られるかもしれません。それが、自分を“成長させていく”ことではないかと思えます。

今年の成人式とI君のウニからそんなことを考えさせられました。I君は、現在仕事も決まり、休みもとらずに働いていることを、彼のお母さんから聞きました。忙しいI君ですから、7年続いたウニは、今年(平成27年)はもう届かなくなると思います。でも、彼の成長はどんどん続くのではないのでしょうか。

(この文章は、I君の承諾を得て掲載しています。)

文責：教頭 工藤 聡